

## 子供のコミュニケーション力上昇を図るおもちゃの提案

A2201516 佐藤 拓也

### 研究の背景

近年、子供たちは他者と関わり合う力、コミュニケーション能力が低下していることが問題に挙げられる。幼稚園や学校などの教育機関において特定のコミュニティ内でしかやり取りができない子供、あいさつや敬語といった基本的なマナーが身につけていない子供、他者への思いやりが持てない子供が増加しているという。たとえば、児童生徒が不登校になる原因として、友人関係をめぐる問題が2割を占めるという結果が出ている。

また、高校や大学の中途退学や、若者の離職の原因としても、生活の中の人間関係をめぐる問題が多数挙げられる。全国の約8割の大学等では、対人関係に関する相談が増加しているようだ。

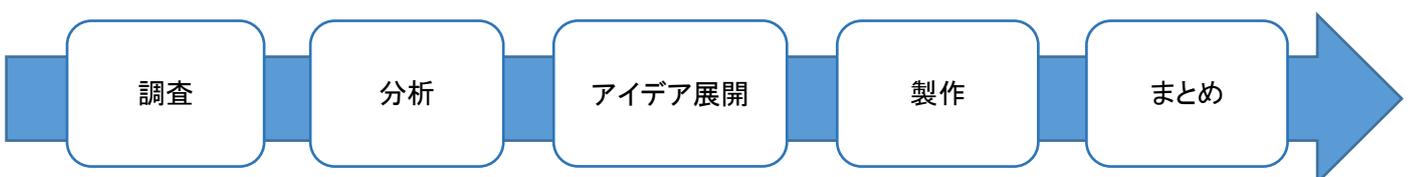
人は子供時代にコミュニケーション力の基盤をつくるといわれる。しかし少子高齢化や地域環境、生活環境の変化などといった影響から、子供たちの他者と関わる機会が減ってしまっているのが現状である。子供時代にコミュニケーションに慣れることができずに成長すると、大人になっても他人と関わることを苦痛に感じてしまう傾向にあるのだ。よって本研究では、集団行動が増え、コミュニケーション力発達の始まりといわれる5歳児をターゲットとし、他者とコミュニケーションをとることで楽しめる新しいおもちゃを提案することで、子供たちが他者を意識し合える環境を設けようと思う。

### 研究の目的

2人以上で遊ぶことで楽しめる新しいおもちゃを提案し、遊んでもらう。

おもちゃを媒介とし、遊びという環境をとおして子供たちがコミュニケーションをとることで、幼い時期から他者と関わり合うことに慣れてもらうというのがこの研究の目的である。

### 研究のプロセス



#### ● 調査・分析

##### ➤ ターゲットの文献・現地調査

資料から子供の成長の変化・身体的に可能なことなどを調査。

現地訪問・インタビューなどから、園児の特徴的な行動・興味のある遊びを調査。

調査から5歳児は簡単なきまりを守って遊ぶことができ、さまざまな運動が可能になるなどといった結果を得られた。また色や光の変化や動植物にも興味を持ち、名前を覚えることもできるようになる。さらに、何かにおいて失敗したときはどうして失敗したのか、改善すべきはどこかを自分で考え、再度試みるという行動がみられるようになる。

➤ おもちゃの市場調査

5歳児に人気のあるおもちゃの特徴、仕組みなどを市場やおもちゃ展覧会から調査。

簡単なルールのもときまりを守って遊ぶことができるおもちゃや色や絵などを利用したデザインのおもちゃは子供に興味を持たれ人気があることがわかった。また、「音」や「動き」のあるおもちゃは一目で子どもの関心を引き付けやすいということが分かった。素材としては、木材を使ったおもちゃは手触りがよく子供になじみやすいという結果を得られた。

➤ コミュニケーション力上昇に関する調査

2人以上で遊ぶことを前提とするおもちゃのしくみや特徴を調査。

文献からコミュニケーションを上昇させる具体的な方法を調査。

カードゲームなど複数人で遊ぶおもちゃは、ゲーム性をもち勝ち負けを決めさせるシステムのものが多い。

コミュニケーションを上昇させるためには、他者と情報や感情を共有し、互いに伝えよう、理解しようとするということが重要であるという調査結果を得られた。

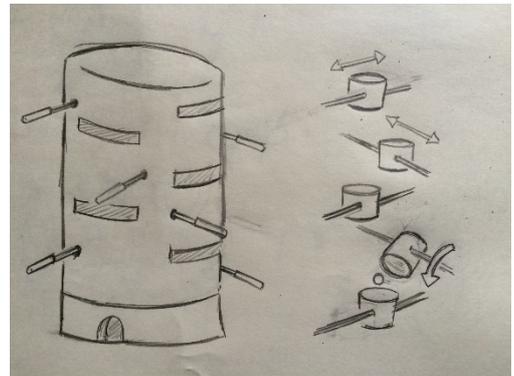
● アイデア展開

複数人で遊ぶことで楽しめるおもちゃを考える。

「勝負」という形式をとった場合、一人で物事を考えることが多くなり、他者と会話をする機会が減ってしまうと考え、「協力」という形式を取り入れた、ゲーム性のあるおもちゃを検討した。互いに指示を出し合ってゲームを進められる仕組みにすることで、他者への意識をより高められるシステムを検討した。

成果物(完成作品)

計6つの器を2人で交互に操作し、ビー玉をゴールへ運ぶおもちゃ。一人では見える範囲が限られるため相手の指示を頼りに、器を正確に操作してビー玉を運ばなければならない。



考察

コミュニケーション力と一言で言っても、それは短期間で身につくものではなく、また実感できるものではない。本研究では、ひとつの例として、子供の身近なものであるおもちゃという媒体を取り上げ他者と関わり合う場を形成したが、本来コミュニケーション力というのは、さまざまな日常生活の中で着実に培われていくことが、自然なことなのである。我々は今後この人間関係をめぐる問題と向き合う上で、子供たちがさまざまな人と接することができるような環境を整えてあげることが重要なのだと私は考える。